

PROFILE

松岡 さとし 達

福井大学医学部形態機能医科学講座統合生理学



2013年9月1日付けで、福井大学医学部形態機能医科学講座統合生理学(旧生理学2)の教授を拝命いたしました。

福井大学医学部は、福井医科大学として1980年に開学しました。統合生理学(旧生理学2)教室は、初代の根来英雄教授が創設され、二代目の樋口隆教授のもとで発展し、神経内分泌を中心とした研究・教育を行って来ました。私とともに赴任した特命助教1名と、准教授1名、助教2名のスタッフと一丸となって、新しくシステム生理学研究の拠点を形成すべく、現在取り組んでいるところです。

私は、鳥取大学を卒業後、内科系の大学院に進みました。縁があって、その当時九州大学医学部生理学教室におられた野間昭典教授(現立命館大学教授)のもとへ心筋細胞のパッチクランプ法を学びに武者修行に行きました。臨床を経験した後、意を決して米国テキサス州ダラスのHilgemann教授のもとに留学し、ジャイアントパッチ法(大きなガラス電極を用いてパッチクランプをする方法)を用いたトランスポーター・チャネルの生物物理学研究を行いました。その後、分子生物学研究を進める目的とカリフォルニアの青い空を見たくて、UCLAのPhilipson教授のもとに、車で4日間かけて移りました。平成6年からは、京都大学に異動された野間昭典教授の教室に異動し、心筋細胞などの細胞生理学と数理モデルを用いたシステム生物学研究を始めました。平成19年には、心機一転、新設された「次世代免疫制御を目指す創薬医学融合拠点」に異動し、それまでの研究を免疫学領域に展開しました。

私の主な研究は、第一に心臓生理学を中心とす

るシステム生理学(フィジオーム)研究です。心筋細胞の電気生理、イメージング、分子生物学的研究と数理モデル解析を組み合わせた研究を行ってきました。代表的数理モデルとして包括的心筋細胞モデル(Kyoto model)があります。分子レベルでは、細胞膜及びミトコンドリアNa/Ca交換体の研究を行って来ました。福井大学におきましては、分子、細胞レベルにとどまらず、臓器、個体レベルに視点を広げ、生理学実験(ウェット)と数理モデルによるin silico解析(ドライ)を統合した「システム生理学」をさらに推し進め、複雑な生命現象を論理的かつ定量的に理解し、生体機能の新しい制御法を見つけることにチャレンジします。

ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

略歴

- 昭和60年 鳥取大学医学部医学科 卒業
- 平成元年 鳥取大学医学研究科博士課程終了. 鳥取大学医学部附属病院内科学第一入局
- 平成3年 米国テキサス大学サウスウエスタンメディカルセンター 生理学・研究員
- 平成5年 米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校心臓血管研究所・生理学研究員
- 平成6年 京都大学医学研究科・細胞機能制御学(生理学)・助手及び助教
- 平成19年 京都大学医学研究科・次世代免疫制御を目指す創薬医学融合拠点・特定准教授
- 平成25年 福井大学医学部・形態機能医科学講座統合生理学・教授